

治療的環境の評価尺度日本版に関するアンケート調査票

問1. 貴施設の基本的なことがらについてお聞かせください。

a. 施設名 _____

b. 設置主体（該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください）

1. 公立 (6.6%)	3. 公設民営 (87.4%)
2. 社会福祉法人立 (6.0%)	4. その他 (0.0%)

c. 施設開設年 明治・大正・昭和・平成 _____ 年

d. 現施設建設年 明治・大正・昭和・平成 _____ 年

e. 施設の階数 地上 (平均 1.95) 階 地下 (平均 0.08) 階

f. 施設全体の入居者の居室（該当者なしの場合は数字の0をご記入ください）

	部屋数		部屋数
個 室	(平均 6.72)	4人部屋	(平均 13.15)
2人部屋	(平均 5.01)	それ以上： 具体的に _____ 人部屋	
3人部屋	(平均 0.47)	それ以上： 具体的に _____ 人部屋	

g. 入居者定員 (平均 67.10) 人

h. 入居者実人員（該当者なしの場合は数字の0をご記入ください）

男性 <u> (平均 14.24) </u> 人	女性 <u> (平均 52.17) </u> 人	合計 <u> (平均 66.98) </u> 人
65～69歳 <u> (平均 2.56) </u> 人	70～74歳 <u> (平均 5.30) </u> 人	75～79歳 <u> (平均 9.40) </u> 人
80～84歳 <u> (平均 13.93) </u> 人	85歳以上 <u> (平均 34.73) </u> 人	合計 <u> (平均 66.50) </u> 人

i. 要介護度（該当者なしの場合は数字の0をご記入ください）

要介護1 <u> (平均 6.01) </u> 人	要介護2 <u> (平均 9.53) </u> 人	要介護3 <u> (平均 11.60) </u> 人
要介護4 <u> (平均 18.13) </u> 人	要介護5 <u> (平均 21.40) </u> 人	要支援 <u> (平均 0.23) </u> 人
その他 <u> (平均 0.05) </u> 人		

(注) 無回答数及び無回答率についてはここでは掲載していない。

j. 痴呆の程度（該当者なしの場合は数字の0をご記入ください）

軽度の痴呆（平均 13.30）人	中度の痴呆（平均 18.75）人
高度（重度）の痴呆（平均 21.08）人	痴呆の入居者の合計（平均 52.99）人

k. 痴呆のある入居者を担当するケアワーカーは、痴呆のない一般の入居者を担当するケアワーカーよりも増員されていますか（○印は1つだけ）。

1. 増員されている（15.0%）	2. 増員されていない（79.6%）
-------------------	--------------------

l. 貴施設の痴呆のある入居者に対するケアワーカーの担当制についてお聞かせください。以下の(1)、(2)それぞれについて、該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

	全ての痴呆性 の入居者に 実施	障害や痴呆 の程度に応じ て、一部の痴 呆性入居者 に実施	実施していない
(1) 痴呆のある入居者1人ひとりに対して、担当するケアワーカーを決めている（個別担当制）→	(29.9%)	(4.2%)	(63.5%)
(2) 個別担当制ではないが、グループやフロアごとに、痴呆のある入居者を担当するケアワーカーを決めている→	(21.6%)	(9.0%)	(68.9%)

m. 痴呆のある入居者の居室の配置から見て、貴施設はどのタイプに該当しますか。該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

1. 痴呆性高齢者専用施設	(1.2%)
2. 痴呆のある入居者のための専用棟がある（その人数（平均 26.57）人）	(12.6%)
3. 痴呆のある入居者のための専用階がある（その人数（平均 34.00）人）	(4.8%)
4. 一般棟の一部を専用に区分している（その人数（平均 17.86）人）	(4.2%)
5. 居室の一部を専用居室にしている（その人数（平均 8.70）人）	(7.8%)
6. 痴呆のある入居者だけを集めた専用部分はない	(68.9%)
7. その他（具体的に：)	(0.0%)

以下の質問については、「問1」のmで1～4に○印をつけた方はそれぞれの部分について、それ以外の方は痴呆性高齢者の方が多く暮らしている部分を念頭においてお答えください。以下では、この部分を「専用部分」と称します。

問2. 専用部分とケアステーションとの関係を最もよく表わしているのは次のうちどれですか。該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

1. 各専用部分にケアステーションがあり、担当部分のみにサービスを提供している	(15.6%)
2. 専用部分にあるケアステーションは、他の部分にもサービスを提供している	(46.1%)
3. 専用部分にはケアステーションがない	(25.1%)

問3. ケアワーカーはどこでケア記録をつけていますか。a～dのそれぞれについて、「1. はい」「2. いいえ」のいずれかに○印をおつけください。

	はい	いいえ
a. ケアステーション →	(94.0%)	(5.4%)
b. 食堂やデイルームなどの共用エリアに置かれているスタッフ専用の机 →	(13.8%)	(65.9%)
c. ケアステーション以外の他の用途（入居者のレクリエーション活動エリアの一部など）の場所と共有になっているカウンターまたは事務室 →	(19.8%)	(59.9%)
d. ケアステーション以外の独立した事務室 →	(7.2%)	(72.5%)

問4. 施設内のある場所から他の場所に行く際に、専用部分が通り道になっていますか（○印は1つだけ）。

1. はい (40.1%)	2. いいえ (58.7%)
---------------	----------------

問5. 入居者は専用部分で以下のa～cの行動をどの程度行っていますか。a～cのそれぞれについて、該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

	すべて(100%) 専用部分で行 っている	ほとんど(99～ 51%)専用部分 で行っている	一部(50～1%) 専用部分で行 っている	専用部分では 行っていない
a. 食事→	(26.9%)	(25.7%)	(9.0%)	(37.7%)
b. 入浴→	(29.9%)	(8.4%)	(2.4%)	(58.1%)
c. その他で日課として決められている活動→	(12.6%)	(37.1%)	(18.6%)	(29.9%)

問6. 専用部分の出入口は、入居者にとって、ドアだとわからないように工夫されていますか。a～bのそれぞれについて、該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

a. 施設内の他の部分に通じるドア（○印は1つだけ）

1. はい：ドアは隠されており、専用部分のほとんどの場所から見えなくなっている (0.0%)
2. ある程度：部分的に出入り口のドアが隠されていたり、わかりにくくされたりしている (9.6%)
3. いいえ：隠されていない (56.3%)
4. 該当しない (34.1%)

b. 屋外に通じるドア（○印は1つだけ）

1. はい：ドアは隠されており、専用部分のほとんどの場所から見えなくなっている (0.0%)
2. ある程度：部分的に出入り口のドアが隠されていたり、わかりにくくされたりしている (4.8%)
3. いいえ：隠されていない (73.1%)
4. 該当しない (22.2%)

問7. 入居者が専用部分から許可なく出入りすることをどのように管理していますか（中庭に通じるドアは除きます）。専用部分から出入りするすべてのドアについてお答えください。以下のa～bについてあてはまる数をご記入ください（ない場合は数字の0をご記入ください）。

a. 専用部分からの出入りに使われるエレベーターの数 （平均 0.50）

b. 専用部分からの出入口の数 （平均 2.41）

※専用部分からの出入口の数が「0」の場合は、「問8」にお進みください。

c. ドアは入居者の外出を管理するために鍵をかけていますか（○印は1つだけ）。

1. はい → 続けてd～fの質問にお答えください	(54.7%)
2. いいえ → gの質問にお進みください	(40.6%)

d. ～f. のそれぞれについて、「1. はい」「2. いいえ」のいずれかに○印をおつけください。

	はい	いいえ
d. 入居者が近づくことによりドアの鍵がかかる工夫がなされている（入居者がつけている電子制動装置に反応する）→	(1.4%)	(92.9%)
e. ドアにはふだん鍵がかかっており、キーパッド(※1)やスイッチを押せば鍵が開く→	(54.3%)	(42.9%)
f. ドアには夜間鍵をかけており、悪天候の時以外は、昼間は開けている→	(12.9%)	(80.0%)

(※1) ドアの鍵を開ける際に番号や文字などを入力する装置

g. ドアには入居者の外出を管理するためのアラームがついていますか（○印は1つだけ）。

1. はい → 続けてh～jの質問にお答えください	(21.9%)
2. いいえ → 問8にお進みください	(71.9%)

h. ～j. のそれぞれについて、「1. はい」「2. いいえ」のいずれかに○印をおつけください。

	はい	いいえ
h. 入居者のつけているウォームに反応するアラーム(※2)がある→	(35.7%)	(57.1%)
i. キーパッド、カード、スイッチにより解除しなければ、反応するアラームがある→	(25.0%)	(60.7%)
j. 出入りの際には必ず鳴るアラームがある→	(46.4%)	(39.3%)

(※2) 入居者がつけている装置に反応する

問8. 専用部分の以下のa～dの場所におけるメンテナンスについての一般的な状況についてお答えください。a～dのそれぞれについて、該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

	よくメンテナンスされている	いくらかの修理が必要である	かなり修理が必要である
a. 食堂やデイルームなどの共用エリア→	(67.1%)	(31.1%)	(1.2%)
b. 玄関ホールや廊下→	(70.7%)	(27.5%)	(1.2%)
c. 入居者の居室→	(55.1%)	(40.1%)	(4.2%)
d. 居室・共用のトイレ→	(47.3%)	(45.5%)	(6.6%)

問9. 専用部分の以下のa～dの場所における清潔さについての一般的な状況についてお答えください。a～dのそれぞれについて、該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

	非常に清潔である	まあ清潔である	清潔でない
a. 食堂やデイルームなどの共用エリア→	(40.1%)	(59.3%)	(0.6%)
b. 玄関ホールや廊下→	(45.5%)	(53.9%)	(0.6%)
c. 入居者の居室→	(25.7%)	(73.7%)	(0.6%)
d. 居室・共用のトイレ→	(26.3%)	(70.7%)	(2.4%)

問10. 専用部分の以下のa～bの場所において、排泄物（尿・大便）の臭いがどの程度残っているかお答えください。a～bのそれぞれについて、該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

	ほとんど、またはまったく残っていない	いくつかの場所に残っている	ほとんど、またはすべてにおいて残っている
a. 食堂やデイルームなどの共用エリア→	(86.8%)	(13.2%)	(0.0%)
b. 入居者の居室→	(52.1%)	(47.3%)	(0.6%)

問11. 専用部分の以下のa～dの場所における床の表面についてお答えください。a～dのそれぞれについて、該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

	すべらない	ほとんどすべらない	すべりやすい
a. 食堂やデイルームなどの共用エリア→	(34.1%)	(54.5%)	(10.8%)
b. 玄関ホールや廊下→	(32.3%)	(55.1%)	(12.0%)
c. 入居者の居室→	(31.1%)	(57.5%)	(10.8%)
d. 居室・共用のトイレ→	(29.3%)	(62.3%)	(7.2%)

問12. 専用部分の以下のa～cの場所にはどの程度、手すりが取り付けられているかお答えください。a～cのそれぞれについて、該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

	非常に多く取り付けられている	ある程度取り付けられている	ほとんど、またはまったく取り付けられていない
a. 廊下→	(68.9%)	(31.1%)	(0.0%)
b. 浴室→	(38.9%)	(54.5%)	(4.8%)
c. 居室・共用のトイレ→	(42.5%)	(54.5%)	(3.0%)

問13. 専用部分の以下のa～cの場所における照明の明るさについてお答えください。a～cのそれぞれについて、該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

	適度な明るさである	まあ適度な明るさである	あまり適度ではない
a. 廊下→	(67.7%)	(26.9%)	(5.4%)
b. 食堂やデイルームなどの共用エリア→	(75.4%)	(22.2%)	(2.4%)
c. 入居者の居室→	(67.7%)	(26.9%)	(5.4%)

問14. 専用部分の以下のa～cの場所において、どの程度ざらざらとまぶしい光がありますか。a～cのそれぞれについて、該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

	ほとんど、またはまったくない	いくつかの場所にある	多くの場所にある
a. 廊下→	(69.5%)	(27.5%)	(3.0%)
b. 食堂やデイルームなどの共用エリア→	(53.9%)	(34.7%)	(11.4%)
c. 入居者の居室→	(49.1%)	(40.7%)	(10.2%)

問15. 専用部分の以下のa～cの場所において、明るい所と暗い所がなく、光は均一にあたっていますか。a～cのそれぞれについて、該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

	すべて均一である	多くの場所で均一である	均一ではなく、影が多くある
a. 廊下→	(22.8%)	(59.3%)	(18.0%)
b. 食堂やデイルームなどの共用エリア→	(42.5%)	(53.3%)	(4.2%)
c. 入居者の居室→	(26.3%)	(62.9%)	(10.8%)

問16. 専用部分の入居者の居室に人数分の椅子を置いている部屋はどの位ありますか（貴施設の椅子でも、入居者個人の椅子でも可）。該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

1. 75%以上ある (18.0%)	2. 50～74%ある (12.6%)	3. 25～49%ある (15.6%)	4. 25%未満である (53.3%)
-----------------------	------------------------	------------------------	------------------------

問17. 専用部分の以下のa～eの部屋と空間についてお答えください。なお、廊下は「その他」に含めないでください。a～eのそれぞれについて、1～3から該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください（○印は各行3つずつ）。

部屋・空間	1. 専用部分に設置されていますか		2. この専用部分専用のものでしょうか		3. トイレは近接していますか（2～3m以内）	
	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
a. 施設の活動や食事など多目的に使用できる部屋→	(60.5%)	(37.1%)	(37.7%)	(58.7%)	(29.9%)	(66.5%)
b. 施設が用意した活動を行う部屋→	(51.5%)	(44.3%)	(31.1%)	(64.7%)	(25.7%)	(68.9%)
c. 食堂（飲食専用）→	(52.1%)	(46.1%)	(32.9%)	(64.1%)	(24.0%)	(73.1%)
d. 入居者が自由にくつろげる小空間→	(64.7%)	(31.7%)	(40.7%)	(53.3%)	(32.9%)	(61.7%)
e. 畳の共用エリア→	(39.5%)	(55.7%)	(25.7%)	(67.1%)	(18.6%)	(74.9%)
f. その他→ （具体的に： ）						
g. その他→ （具体的に： ）						
h. その他→ （具体的に： ）						
i. その他→ （具体的に： ）						

問18. 専用部分にはどの程度、徘徊中に行き止まりにならない工夫がされていますか。また、廊下には座る場所が確保されていますか。以下のa～bのそれぞれについて、該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

a. 行き止まり（○印は1つだけ）

- | | |
|---------------------------------|---------|
| 1. 行き止まりにならない | (43.7%) |
| 2. 行き止まりになるか、警報または安全装置のついたドアがある | (52.1%) |

b. 座る場所（○印は1つだけ）

- | | |
|----------------|---------|
| 1. 廊下に座る場所がある | (88.6%) |
| 2. 廊下には座る場所はない | (10.8%) |

問19. 専用部分の部屋や空間は、以下のどの形態ですか。該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

- | | |
|--|---------|
| 1. 廊下がない：部屋は直接共用エリア（リビングルームなど）に通じている | (9.0%) |
| 2. 短い廊下がある：部屋の出入口から共用エリア（リビングルームなど）が容易に見える | (24.0%) |
| 3. 長い廊下がある：部屋の出入口からは共用エリア（リビングルームなど）が見えない | (60.5%) |

問20. 専用部分の食堂やデイルームなどの共用エリアの家具、装飾品などの特徴は、どの程度、家庭的な雰囲気（施設という感じではなく「家庭的」である）になっていますか。該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

- | | |
|-------------------------------------|---------|
| 1. 非常に家庭的である（共用エリアの75%以上が「家庭的」である） | (3.6%) |
| 2. 適度に家庭的である（共用エリアの50～74%が「家庭的」である） | (23.4%) |
| 3. まあ家庭的である（共用エリアの25～49%が「家庭的」である） | (28.1%) |
| 4. 家庭的でない（共用エリアの25%未満が「家庭的」である） | (44.3%) |

問21. 専用部分に入居者または入居者の家族が利用できる台所がありますか。該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

- | | |
|-----------------------|---------|
| 1. 利用することができる | (6.0%) |
| 2. 一部の台所用品を利用することができる | (12.6%) |
| 3. 利用することができない | (80.8%) |

問22. 専用部分の居室において、どの位の入居者が、居室に少なくとも3つ以上の個人の写真や思い出の品を置いていますか。該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

- | | |
|---------------------|---------|
| 1. 75%以上の入居者が置いている | (24.0%) |
| 2. 50～74%の入居者が置いている | (23.4%) |
| 3. 25～49%の入居者が置いている | (22.8%) |
| 4. 25%未満の入居者が置いている | (29.3%) |

問23. 専用部分の居室において、どの位の入居者が、施設らしくない家庭的な家具を持ち込んでいますか。該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

- | | |
|-----------------------|---------|
| 1. 75%以上の入居者が持ち込んでいる | (3.6%) |
| 2. 50～74%の入居者が持ち込んでいる | (5.4%) |
| 3. 25～49%の入居者が持ち込んでいる | (16.2%) |
| 4. 25%未満の入居者が持ち込んでいる | (73.7%) |

問24. 専用部分のスタッフは、入居者が食堂やデイルームなどの共用エリアにいる際に、個性を大事にした服装や身なりになるようにどの程度、気を配っていますか。該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

- | | |
|--|---------|
| 1. 非常に気を配っている（身なりがきちんとしている入居者が、75%以上である） | (30.5%) |
| 2. まあ気を配っている（身なりがきちんとしている入居者が、25～74%である） | (67.1%) |
| 3. ほとんど気を配っていない（身なりがきちんとしている入居者が、25%未満である） | (2.4%) |

問25. 専用部分の以下のa～bの場所から中庭や外の景色などが見える部屋はどの位ありますか。
a～bのそれぞれについて、該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

	75%以上に おいて見える	50～74%に おいて見える	25～49%に おいて見える	25%未満に おいて見える
a. 居室→	(87.4%)	(6.6%)	(3.0%)	(2.4%)
b. 食堂やダイルームな どの共用エリア→	(70.1%)	(15.6%)	(8.4%)	(4.8%)

問26. 専用部分の入居者が物を手に取ったり、見たりして楽しむ触覚や視覚への刺激を受ける機会がどの位ありますか。a～bのそれぞれについて、該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

a. 触覚への刺激

1. 非常に多くある（施設が用意したいくつかの活動の場所と廊下に用意されている）	(7.2%)
2. 多くある（施設が用意した少なくとも1つの活動の場所と廊下に用意されている）	(29.9%)
3. 少しある（施設が用意した特別な活動の場所においてのみ用意されている）	(50.3%)
4. まったくない（刺激を受ける要素になるものはない）	(12.0%)

b. 視覚への刺激

1. 非常に多くある（施設が用意したいくつかの活動の場所と廊下に用意されている）	(23.4%)
2. 多くある（施設が用意した少なくとも1つの活動の場所と廊下に用意されている）	(38.9%)
3. 少しある（施設が用意した特別な活動の場所においてのみ用意されている）	(35.9%)
4. まったくない（刺激を受ける要素になるものはない）	(1.8%)

問27. 専用部分の入居者が自由に行くことができる囲いのある中庭（屋上・ルーフバルコニーなどを含む）や、囲いのある徘徊ができる場所がありますか。該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

1. 専用部分に隣接した囲いのある屋外エリアがあり、入居者が自分で行くことができる	(13.8%)
2. 専用部分に隣接した囲いのある屋外エリアがあるが、スタッフが入居者に付き添わなければならない	(48.5%)
3. 囲いのある屋外エリアがあるが、専用部分から離れた場所にある	(14.4%)
4. 囲いのある屋外エリアはない	(23.4%)

問28. 専用部分にある中庭（屋上・ルーフバルコニーなどを含む）は、どの程度、魅力的（※3）で機能的（※4）ですか。a～bのそれぞれについて、該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

	非常にそうである	多少そうである	全く違う	中庭がない
a. 魅力的→	(13.8%)	(55.7%)	(13.8%)	(16.2%)
b. 機能的→	(10.8%)	(51.5%)	(20.4%)	(16.2%)

（※3）木やレンガなどの温かみのある素材、心地よい椅子などが置かれ、入居者が行ってみたいくなるような雰囲気を持っている

（※4）腰掛けられる椅子、散歩道、ガーデニングの場、安全を確保するための柵などがある

問29. 専用部分の入居者が以下の1～3の場所を確認するためにどのような手段が講じられていますか。それぞれについて、該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

1. 入居者の居室	はい	いいえ
a. ドアを開けたままにしている→	(77.8%)	(18.6%)
b. 入居者の名前をドアやドアの近くの入居者の目の高さに表示している→	(69.5%)	(29.9%)
c. 入居者の最近の写真をドアやドアの近くに表示している→	(14.4%)	(83.2%)
d. 入居者の昔の写真をドアやドアの近くに表示している→	(3.0%)	(94.0%)
e. 個人的に意味のあるものをドアやドアの近くに表示している→	(32.3%)	(64.7%)
f. 部屋番号をドアやドアの近くの入居者の目の高さに表示している→	(34.1%)	(63.5%)
g. 各部屋のドアを違う色にして分かりやすくしている→	(4.2%)	(92.2%)

2. 入居者の居室・共用のトイレ	はい	いいえ
a. ドアを開けたままにして、トイレの中を見やすくしている→	(44.9%)	(49.7%)
b. ドアを開けたままにしているが、トイレの中は見えにくい→	(47.9%)	(47.9%)
c. ドアは閉められているが、写真や絵やサインでトイレを示している→	(14.4%)	(77.2%)

3. 施設が用意した活動を行うエリア	はい	いいえ
a. 50%以上の入居者の居室の出入口から、活動を行うエリアを見ることができ→	(27.5%)	(70.1%)
b. 50%以上の入居者の居室の出入口から、活動を行うエリアを表す標識（例：浴室ののれんなど）を見ることができ→	(16.8%)	(79.6%)
c. 50%以上の入居者の居室の出入口から、活動を行うエリアを示す文字や矢印を見ることができ→	(12.0%)	(83.2%)

問30. 専用部分の相部屋（2人以上の入居者が使う部屋）において、どのようにプライバシーの配慮がなされていますか。a～bのそれぞれについて、該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。もし相部屋がなければ、「3」に○印をおつけください。

	はい	いいえ	すべて個室
a. プライバシーカーテン(※5)→	(88.6%)	(7.2%)	(4.2%)
b. その他→	(7.8%)	(88.0%)	(4.2%)

↓
「その他」：具体的に_____

(※5) 通常部屋の天井から吊るされており、それを引けばそれぞれのベッドがある空間を分けることができるカーテン

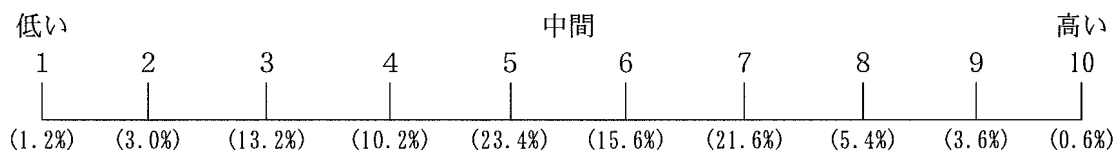
問31. 専用部分の主要な食堂やデイルームなどの共用エリアで、テレビはどうしていますか。該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

1. テレビはずっと消している	(1.2%)
2. テレビは時々つけている	(41.3%)
3. テレビはずっとつけている	(55.7%)
4. テレビは映画観賞などの活動の間のみつけている	(1.8%)
5. テレビは設置されていない	(0.0%)

問32. 専用部分の以下のa～fの雑音がどの程度、聞こえてきますか。a～fのそれぞれについて、該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。

	まったくくない	時々	絶えず、あるいはかなりの頻度で
a. 入居者が叫ぶ声または呼ぶ声→	(1.2%)	(85.0%)	(13.2%)
b. スタッフが叫ぶ声または呼ぶ声→	(8.4%)	(81.4%)	(9.0%)
c. テレビやラジオの音→	(16.2%)	(58.7%)	(24.6%)
d. 業務連絡用放送などの音→	(9.6%)	(77.2%)	(12.0%)
e. アラームやナースコールの音→	(12.0%)	(66.5%)	(20.4%)
f. 他の機械音(空調など)→	(59.9%)	(35.9%)	(1.8%)

問33. 専用部分について、総合的に評価してください。尺度は10段階です。該当するものを1つ選び、番号に○印をおつけください。



例

- ・不快感がある
- ・消極的である
- ・機能的でない

例

- ・とても気持ちがいい
- ・積極的である
- ・機能的である

ご協力ありがとうございました。

ご記入頂いた施設様には、本調査結果の概要版を送付させていただきます。
概要版をご希望される場合には、お手数ですが下記に連絡先をご記入下さい。

貴施設名		
御記入頂いた方のお名前	役職	氏名
御住所	〒 -	
御電話番号	()	-

痴呆性高齢者のストレスを指標とした居住環境の評価研究（2）
－日常の出来事およびケアスタッフとの関わりが
痴呆性高齢者の唾液中免疫抗体に及ぼす影響－

分担研究者 児玉昌久 早稲田大学人間科学部教授
研究協力者 平田 麗 早稲田大学大学院人間科学研究科
研究協力者 櫻井 彰 社会福祉法人マザアス
研究協力者 石橋春美 社会福祉法人マザアス
研究協力者 田平麻子 社会福祉法人マザアス

グループホームに入居する痴呆性高齢者を対象に、唾液中の免疫抗体である分泌型免疫グロブリン A (secretory immunoglobulin A; sIgA) と日常出来事との関連について検討するために、連続 18 日間の唾液の採取、日常出来事の調査、ケアワーカーのストレス反応の測定を行った。グループホーム生活において望ましい出来事を体験することは、入居者の sIgA 濃度を高めることが示された。また、入居者らはケアワーカーのストレスを何らかの形で感じ取っている可能性、および、ケアワーカーのストレスが入居者の免疫機能を低減させる可能性も示唆された。

A. 研究目的

グループホームにおける介護のあり方は、利用者主体が基本であり、この利用者主体のあり方を継続的に実践するためのチーム作りがケアワーカーに求められている（永田，2002）。しかし、音山・矢富（1997）は、施設老人ホームにおける利用者中心の介護が介護スタッフのストレスに及ぼす影響を検討しており、そのなかで利用者中心の介護の水準が高いほど、介護スタッフのストレス反応は低減することを示しているが、その一方で痴呆中心介護グループにおいては、一般的疲労感に対する低減効果が全く観察されなかったことを報告している。このことから、グループホームにおけるケアワーカーのストレス度はかなり高いことが推測される。また、共同生活者として入居者とケアワーカーの関係が密接になればなるほど、ケアワーカーの

ストレスが入居者に何らかの影響をおよぼす可能性も大きくなることが考えられる。

中・高齢者においても日常のストレスに対する脆弱性を表す指標として sIgA が有用であることが示唆されていること（Miletic, Schiffman, Miletic, & Sattely-Miller, 1996）から、本研究では、グループホームに入居する痴呆性高齢者を対象に、唾液中の免疫抗体である分泌型免疫グロブリン A (secretory immunoglobulin A; sIgA) と日常の出来事、および、ケアワーカーのストレスとの関連の検討を目的とする。

B. 研究方法

被験者：東京都下 H 市の 2 つのグループホーム（以下：GH）に入居している痴呆性高齢者（以下：入居者）および同施設に勤務するケアワー

カーのうち、調査参加に同意した入居者 15 名（親権者にも本調査の趣旨を説明し、入居者の調査参加に対する承諾を得た者）、ケアワーカー 19 名を対象とした。入居者の基本属性を Table 1 に、ケアワーカーの年齢と介護職経験年数の平均および標準偏差を Table 2 に示した。

Table 1 入居者の基本属性

	GH 1 (n=7)	GH 2 (n=8)	Total (n=15)
性別	女性	女性	女性=15
年齢	83.29±6.29	78.75±6.96	80.87±6.83
アルツハイマー型痴呆*1	0	2	2
脳血管性痴呆*1	4	2	6
老人性痴呆*1	3	4	7
NMスケール評価得点*2	37.86±6.18	29.25±9.10	33.27±8.80
N-ADL評価得点	37.86±6.26	44.63±6.00	41.47±6.85

平均±SD, または実数

*1 施設入居時に判定された痴呆の型(施設提供資料)

*2 N式老年者用精神状態評価尺度:NMスケール(重症:0~16, 中等症:17~30, 軽症:31~42, 境界:43~47, 正常:48~50として評価)

Table 2 ケアワーカーの年齢と介護職経験年数の平均と標準偏差

	性別(人数)	年齢	介護職経験年数
GH 1	男性(1)	23.00	.83
	女性(7)	35.57±10.24	2.50±2.92
	計(8)	34.00±9.80	2.29±2.58
GH 2	男性(3)	32.67±3.72	3.72±3.17
	女性(8)	34.00±9.82	6.09±4.57
	計(11)	41.36±14.00	5.44±4.22
全体	19	38.05±12.56	4.02±3.85

平均±SD, または実数

調査時期: 2002年11月3日~20日

手続き: 朝食1時間後に行われる日々のバイタルチェックの時間に、ケアワーカーの付き添いのもと、入居者の舌下に3分間脱脂綿を含ませる形式で唾液サンプルの採取を18日間連日行った。唾液サンプルは試料分析委託まで冷凍保存された。同時にその日の入居者の状態(昨晩の睡眠時間、睡眠状態、起床時間、朝食終了時間、唾液採取時間、血圧、体温、体調、朝の食欲、機嫌、風邪の症状、薬物摂取の有無、虫歯・口内炎の有無)および環境状態(天候・室温・湿度・気圧)に関する質問紙への記入がケアワーカーによって行われた。

入居者の体験する日常出来事の測定は、菅沼(1997)の老人施設内での日常ストレス場面を参考に、また両GHのホーム長に入居者が日々体験する日常出来事について事前調査を行い作成した計40項目のチェックリストを用いて、その日に勤務しているケアワーカー全員によって、各GHの入居者全員についての日常出来事の測定が勤務終了時に行われた。はじめに出来事の有無を記入し、その後、出来事が入居者にとって「非常に辛そうだった」(-3)から「非常に良さそうだった」(+3)の7段階で主観評定を行い記入するよう求められた。

ケアワーカーのストレス反応はパブリックヘルスリサーチセンター版ストレスチェックリスト; PHRF-SCL(城・児玉・児玉, 1997)の各3因子(身体的ストレス反応, 心理的ストレス反応, 状況認知に対するストレス反応)のそれぞれ因子負荷量の高い順に5項目ずつ計15項目をピックアップした短縮版を用いた。ケアワーカーは勤務, 非勤務にかかわらず, 就寝前に毎晩記入するよう求められた。

試料分析方法：採取された唾液検体は株式会社エスアールエル東京メディカルに委託分析された。検体は1500G・3000回転で10分遠心分離が行われ、0.01ml単位で唾液量の測定が行われた後、酵素免疫分析法（enzyme immunoassay）によってsIgA濃度（concentration $\mu\text{g/ml}$ ）が測定され、濃度×唾液量／3の式によってsIgA分泌率（secretion rate $\mu\text{g/min}$ ）が算出された。個人間の分散を小さくするために、得られたsIgA濃度および分泌率は平方根変換を行い、sIgA濃度（square-root concentration $\mu\text{g/ml}$ ；sr-con）およびsIgA分泌率（square-root secretion rate $\mu\text{g/min}$ ；sr-sec）を求め、その値を解析に用いた。

入居者の体験した日常出来事は、望ましい（Desirable Event：DE）・望ましくない出来事（Undesirable Event：UDE）を、ケアワーカーの主観評定得点によって重み付けを行い、DE得点およびUDE事得点をそれぞれ算出した。

PHRF-SCLは、「ない」＝0点、「時々ある」＝1点、「よくある」＝2点を付与し、身体的反応、心理的反応、状況認知の因子ごとに、合計得点を求めた。

本調査のデータは日々繰り返し測定が行われたデータのため、同様の先行研究に習い、各被験者ごとに実測値から被験者内平均値を減算し、被験者間の影響を取り除く作業を行った（Bolger, DeLongis, Kessler & Schilling, 1989; Stone, Neale, Cox, Napoli, Valdimarsdottir, & Kennedy-Moore, 1994）。その結果sIgAの測定に十分な唾液量が得られなかった被験者のデータは分析から除外した。

C. 結果

IgA分析可能日と不可能日との比較：sIgAの測定に十分な唾液量が得られなかった61日分のデータ、および風邪の症状15項目のうち1項目

でもチェックがあった日の40日分のデータおよび極端なsIgA濃度値を示したデータが分析から除外され、最終的に120日分のデータが分析の対象となった。分析に先立ちsIgAの試料分析が不可能であった日と、可能であった日との間に心理的な要因に差異があるか検討するために、前日および当日の望ましい出来事（DE）および望ましくない出来事（UDE）得点の比較を行ったが、有意な差は検出されなかった（前日： $t_s(220) < 0.27, p > .10$ ，当日： $t_s(206) < -0.10, p > .10$ ）。

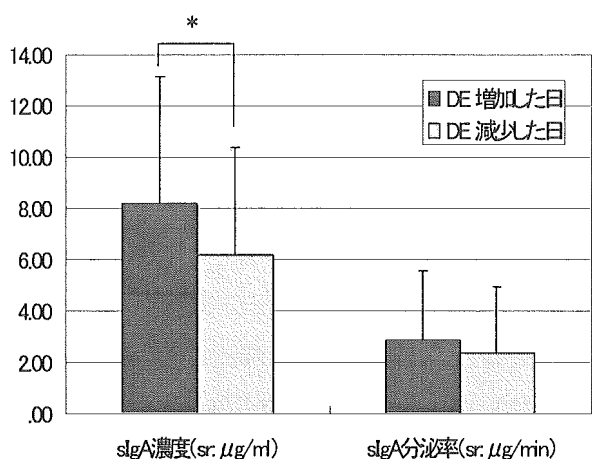
sIgAと日常出来事との関連：sIgA濃度・分泌率およびDEとUDE得点の平均と標準偏差をTable3に示した。sIgAと日常の出来事の関連性を検討するために、sIgA濃度・分泌率と前日のDEとUDEとの間でPearsonの相関係数を求めた。いずれの間にも有意な相関係数は得られなかった（ $r_s < .012, p_s > .901$ ）。

Table3 sIgA濃度・分泌率およびDEとUDE得点の平均と標準偏差

	有効データ数	Mean	SD
sIgA濃度 (sr)	111	7.62	4.79
sIgA分泌率 (sr)	111	2.77	2.63
DE	111	.13	5.27
UDE	111	-.28	2.74

そこで、DE・UDE別に前日の得点から2日前の得点を減じ、2日前から前日にかけてそれぞれの出来事得点が増加した入居者と減少した入居者とを2群に分け、DE・UDEそれぞれの2日前から前日にかけての出来事の変化（増加・減少）を独立変数にし、sIgA濃度・分泌率を各従属変数にしてt検定を行ったところ、DEにおいては、sIgA濃度のみ増加群が減少群よりも有意

に高いことが示されたが(両側検定 $t(101) = .52$, $p < .05$), UDE においては, 両指標とも群による差は検出されなかった(両側検定 $t_s(101) \leq 2.17$, $p_s > .10$). 各出来事の群別の sIgA 濃度・分泌率の推移を Figure1, 2 に示した.



* $p < .05$

Figure1 DE の 2 日前から前日までの変化各群の sIgA 濃度・分泌率の値

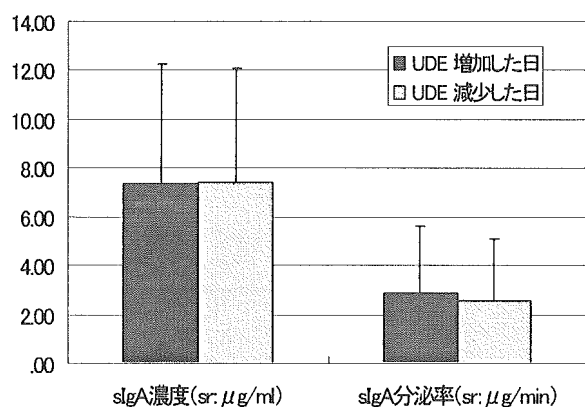


Figure2 UDE の 2 日前から前日までの変化各群の sIgA 濃度・分泌率の値

ケアワーカーの勤務状態とストレス反応および気分との関連: 調査期間中, 7 日以上勤務していたケアワーカー (GH1=8 名, GH2=6 名) の異なる勤務状態 (非勤務, 8 時~17 時 (A 勤務),

9 時~18 時 (B 勤務), 12 時~21 時 (C 勤務), 17 時~翌 10 時 (夜勤日), 夜勤明け (明け)) における PHRF-SCL の 3 つの下位尺度別得点平均値および標準偏差を Table4 に示した. 異なる勤務状態がストレス反応に与える影響を検討するために, 勤務状態 (6 状態) を独立変数とし, PHRF-SCL の下位尺度得点 (身体的反応, 心理的反応, 状況認知) を各従属変数とした 1 元配置の分散分析を行った. その結果, 状況認知得点に有意な, 身体的反応と心理的反応得点に有意傾向の主効果が認められた ($F_s(5, 187) \geq 1.91$, $p_s < .10$). Tukey 法による多重比較の結果, 心理的反応得点において非勤務日より A 勤務日が高い傾向にあり ($p < .10$), 状況認知得点において, A 勤務日が高くなる傾向を示した ($p < .05$), 夜勤日より高い傾向を示した ($p < .10$) (Figure3, 4, 5).

Table4 PHRF-SCL 各下位尺度得点の勤務状態別平均と標準偏差

下位尺度	勤務状態	有効データ数	Mean	SD
身体的反応得点	非勤務日	68	.65	1.35
	A勤務日	28	1.53	1.66
	B勤務日	25	1.20	2.04
	C勤務日	23	1.29	1.47
	夜勤日	29	.69	1.22
	明け日	20	.81	1.53
心理的反応得点	非勤務日	68	-.27	.87
	A勤務日	28	.41	1.47
	B勤務日	25	.13	1.05
	C勤務日	23	.20	1.09
	夜勤日	29	-.12	1.05
	明け日	20	.11	1.17
状況認知得点	非勤務日	68	-.22	.68
	A勤務日	28	.42	1.10
	B勤務日	25	.19	1.16
	C勤務日	23	.10	1.02
	夜勤日	29	-.26	.93
	明け日	20	.08	1.14

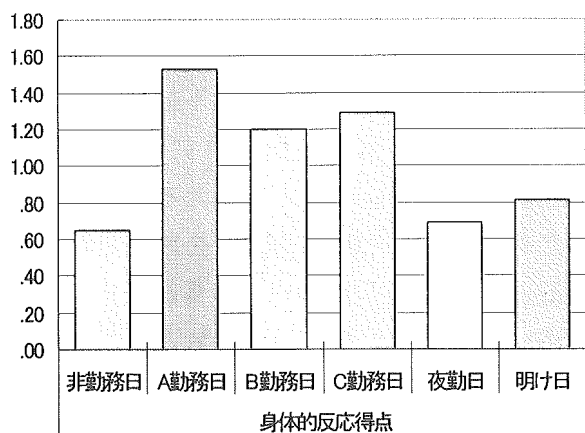
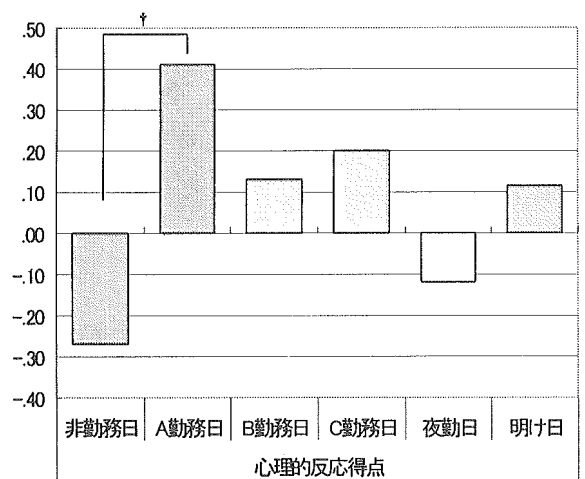
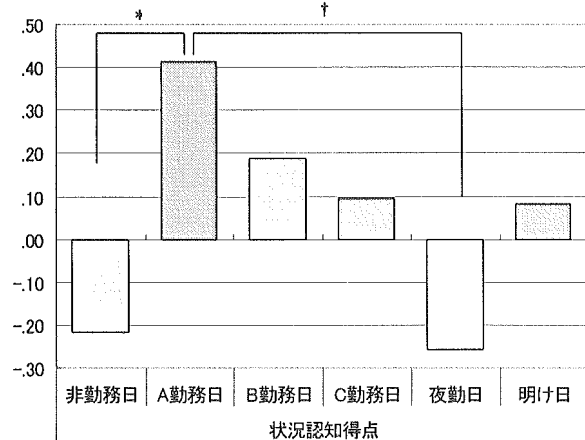


Figure3 各勤務状態における身体的反応得点



† $p < .10$

Figure4 各勤務状態における心理的反応得点



† $p < .10$ * $p < .05$

Figure5 各勤務状態における状況認知得点

ケアワーカーのストレスと入居者の sIgA の関連の検討：PHRF-SCL の3つのストレス反応（身体的反応・心理的反応・状況認知）得点を、各ケアワーカー別に実測値から個人内平均値を減算し求めた値を用いて、各 GH ごとにその日勤務した人の得点の平均値を1日のストレス得点として算出した。GH ごとの PHRF-SCL の3下位尺度得点平均値および標準偏差を Table 5 に示した。入居者の sIgA とケアワーカーのストレスの関連を検討するために、GH ごとに、sIgA 濃度・分泌率と算出した3つのストレス反応前日得点の GH 代表値との間で Pearson の相関係数を求めた (Table 6)。GH1 ではいずれの間にも sIgA との有意な相関係数は得られなかった ($r < .13$, $ps > .32$) が、GH2 において、sIgA 濃度と心理的反応得点の間に有意傾向であるが負の相関係数が検出された ($r = -.27$, $p < .10$)。

Table 5 高齢者用 SCL 下位尺度得点の各 GH ごとの代表値の平均と標準偏差

		身体的反応	心理的反応	状況認知
GH1	有効データ数	65	65	65
	Mean	1.18	.21	.12
	SD	.78	.69	.51
GH2	有効データ数	46	46	46
	Mean	.98	-.09	-.06
	SD	.70	.63	.62

Table 6 sIgA 濃度 (sr)・分泌率 (sr), ケアワーカーのストレス得点との相関

		身体的反応	心理的反応	状況認知
GH1	sIgA濃度 (sr)	.06	.13	.07
	sIgA分泌率 (sr)	.00	.00	.08
GH2	sIgA濃度 (sr)	-.02	-.27 †	-.14
	sIgA分泌率 (sr)	.06	-.14	-.05

† $p < .10$

D. 考察

本研究では、痴呆性高齢者を対象に日常の望ましい・望ましくない出来事、およびケアワーカーのストレスと痴呆性高齢者の sIgA の変動との関連の検討を目的として分析を行った。

GH 入居者の前日の望ましい・望ましくない出来事と sIgA の間にはいずれも相関は認められなかったが、2 日前から前日にかけての望ましい出来事の変化の増減は、sIgA 濃度に影響を与えていた。2 日前から前日にかけて望ましい出来事が増加した日の sIgA 濃度は、減少していた日の sIgA 濃度よりも有意に高いことが示された。Stone ら (1994) は sIgA の抗体反応と日常の出来事や情動との間に関連があることを示しており、それぞれ望ましい出来事とポジティブな情動はポジティブに、望ましくない出来事とネガティブな情動はネガティブに sIgA 抗体反応に影響を与えることを見出した。また、彼らはその中で、望ましい出来事は望ましくない出来事より強く sIgA 抗体反応を予測させることや、望ましい出来事の sIgA 増加に対する遅延効果も検出しており、望ましい出来事の重要性を指摘している。本研究で得られた結果は、このことを支持するものであると同時に、痴呆性高齢者においても sIgA と望ましい出来事の間と同様の関連がある可能性が示唆された。sIgA は上気道感染と負の相関が報告されている (Stone, Read, & Neale, 1987) ことから、本研究の結果によりグループホーム生活において望ましい出来事を体験することは、入居者の sIgA 濃度を高めることが示唆され、結果として感染症への罹患率を減少させるという疾病予防にも有用である可能性が考えられる。

ケアワーカーの勤務状態によるストレス反応および気分の変化が認められた。身体的反応、心理的反応、状況認知のいずれにおいても、A 勤務日 (8 時~17 時) が他の勤務日と比較して

最も高い得点を示し、心理的反応得点で非勤務日より A 勤務日が有意に高く、状況認知得点において非勤務日より A 勤務日が高い傾向を示した。ストレス反応が高いと想定された夜勤日の反応は他日と比較して負の得点を示した。これは測定時間帯の問題が関係しており、夜勤日は職務に就いてから間もない時点で測定されているため、このような結果に現れたと考えられる。また A、B、C の勤務時間は同様に 9 時間と一定だが、入居者の平均就寝時刻が 20 時前後ということから推測すると、C 勤務日における入居者との接触時間は A、B 勤務日と比較して少ないことや、また A 勤務日は B 勤務日より 1 時間早く職務に就くことから、ケアワーカーの睡眠時間の短縮や、執務前の生活におけるゆとりの短縮が推測でき、そのことがストレス反応得点に影響を及ぼしたとも考えられる。また本調査では、明け日 (夜勤日の翌日) の夜にもストレス得点が正の得点を示し、気分も非勤務日と比較して“緊張”において有意に高く、“倦怠”において高い傾向を示した。これらの結果から前日の夜勤の疲労感や緊張感が翌日の夜まで持続している可能性が示唆された。

前日のケアワーカーの心理的ストレス反応得点と入居者の sIgA との間には有意傾向ではあるが、負の相関係数が検出された。つまり、ケアワーカーの心理的ストレス反応得点が高かった日の翌日には、入居者の sIgA 分泌量は減少することが示唆された。このことは GH の入居者にとってケアワーカーの存在が重要な意味を持つことを示す結果といえる。序論でも述べたように、外山 (1999) は、痴呆性高齢者への GH ケアサービスによって、個々の入居者のペースがつかめてくることにより、スタッフと入居者の関係が、一緒に暮らすという“水平の関係”へと変化してくることを指摘している。本調査を行った 2 つの GH のうち、GH1 は開設して約半年で

あったのに対し、GH2は開設しておよそ2年半を経ており、開設当初から入居している者もいる。今回、GH2でのみ、sIgAとケアワーカーのストレスとの間に関連が得られたのは、GH2においての入居者とケアワーカーとの関係がより“水平の関係”に近いものであったと検証することは出来ないが、可能性としては考慮してよかろう。今後、綿密な計画のもとによる更なるデータの蓄積により、両者のより詳細な関連の検討が望まれる。

通常、自覚的ストレス反応の測定尺度としては質問紙法が用いられるが、自己の内的状態を観察し、言語化する者のみに適用可能方法であり、幼児は勿論、児童への適用は困難である。痴呆性高齢者への質問紙法の適用も信頼性の点で問題があるため、非侵襲的方法によるストレス反応の測定はほとんど試みられておらず、福祉の領域における痴呆性高齢者自身のストレスは取り上げられないままにされてきたように見受けられる。本研究はこの問題に対する接近の試みとして行われたものである。

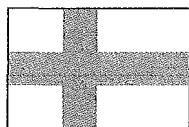
引用・参考文献

- 城佳子・児玉桂子・児玉昌久 1997 高齢者用パブリックヘルスリサーチ版ストレスチェックリストの作成. *ストレス科学研究*, 12, 26-33.
- 小林敏子・播口之朗・西村健・武田雅俊・福永知子・井上修・田中重実・近藤英樹・新川久義 1988 行動観察による痴呆患者の精神状態評価尺度(NMスケール)および日常生活動作能力評価尺度(N-ADL)の作成. *臨床精神医学*, 17(11), 1653-1668.
- Miletic, I. D., Schiffman, S. S., Miletic, V. D., & Sattely-Miller, E. A. 1996 Salivary IgA Secretion Rate in Young and Elderly Persons. *Physiology & Behavior*, 60(1), 243-248.
- 永田久美子 2002 利用者主体の暮らしとケアの実現にむけて—痴呆性高齢者グループホームの挑戦—. *老年社会科学*, 24(1), 23-29.
- 音山若穂・矢富直美 1997 特別養護老人ホームの利用者中心的介護が介護スタッフのストレスに及ぼす影響. *社会保障研究*, 33(1), 80-89.
- Stone, A. A., Reed, B. R., & Neale, J. M. 1987 Changes in daily event frequency precede episodes of physical symptomatology. *Journal of Human Stress*, 13, 70-74.
- Stone, A. A., Neale, J. M., Cox, D. S., Napoli, A., Valdimarsdottir, H. & Kennedy-Moore, E. 1994 Daily events are associated with a secretory immune response to an oral antigen in men. *Health Psychology*, 13, 440-446.
- 菅沼真樹 1997 施設老人の日常ストレス場面とその対処方略 *東京大学大学院教育学研究科紀要*, 37, 195-205.
- 外山義 1999 痴呆性高齢者グループホーム *老年精神医学雑誌*, 10(5), 542-548.
- 上田雅夫・坂野雄二・村上正人・児玉昌久 1990 ストレス科学研究所版ストレスチェックリストについて, 未発表論文

資料：痴呆性高齢者のケア環境 電子アルバム（抜粋）

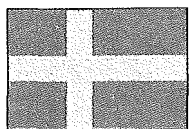
アメリカでワイズマン博士らによって行われている痴呆ケア環境の研修では、痴呆性高齢者に配慮して設計された施設の「walk through」が重要な意味を持っている。とくに日本の痴呆ケア分野においては、施設づくりに取り組もうと考えても、ケアスタッフがイメージできる環境要素は限られ、発想が乏しいことが多い。

本研究では、国内外の優れた痴呆ケア環境の写真に基づき、「痴呆性高齢者のケア環境 電子アルバム」を、写真台帳作成ソフト（蔵衛門工事写真 Ver. 9.0）により作成し、DVDに保存した。この電子アルバムには、本プロジェクトで日本版を開発した professional environmental assessment protocol (PEAP=痴呆性高齢者のための環境支援指針)の8次元（見当識への支援、機能的な能力への支援、環境における刺激の質と調整、安全と安心への支援、生活の継続性への支援、自己選択への支援、プライバシーの確保、入居者との触れ合いの促進）および31の下位項目やコメント等を付け、必要に応じて検索が可能とした。下記のリストに示す施設を、収録している。本報告書ではその抜粋を示した。



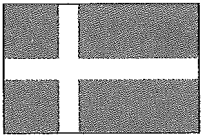
フィンランド

- 1) Gaius Foundation's Puotila Old Age Home (Helsinki)
- 2) Appolokotisäätiö (Applokoti Foundation, Helsinki)
- 3) Epoo Old Age Home (Porvoo)
- 4) Kettumäentie's Service Center (Kettumäentien palvelutalo 、 Kuusankoski)
- 5) Kouvolan Palvelukotiyhdistys (Kouvola)
- 6) Toimiva koti (Helsinki)



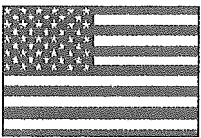
スウェーデン

- 1) Kulltorps (Stockholm)
- 2) Slottsovalen GH (Stockholm)
- 3) Vindragarrens Gruppboende GH (Stockholm)
- 4) Sofia Garden GH (Stockholm)



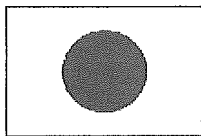
デンマーク

- 1) Montebello (Helsingoer)
- 2) Plejehjemmet Birkebo(Helsingoer)
- 3) Sophielund(Helsingoer)
- 4) Hanneberg(Helsingoer)
- 5) Hamlet Daghjem for demente(Helsingoer)



アメリカ

- 1) Brewster Village (Appleton)
- 2) Evergreen Wood Health and Rehabilitation Center (Spring Hill)



日本

- 1) きのこ老人保健施設
- 2) 神港園しあわせの家グループホーム棟
- 3) 特別養護老人ホーム芦花ホーム
- 4) 特別養護老人ホームあやめの里
- 5) グループホームやすらぎ
- 6) グループホーム椎の木の家